

はじめに～学会誌第5号刊行によせて

過労死防止学会第10回大会は、2024年8月31日(土)～9月1日(日)の二日間にわたり、長井偉訓代表幹事を大会長に、大阪経済大学大隅キャンパスで開催が予定されていました。ところが、超ノロノロ台風10号(サンサン)の影響で、すべてオンライン開催を余儀なくされました。8月31日(土)午前に「第3分科会 航空産業における労働実態と疲労リスク」、同日午後には「特別企画 過労死防止学会活動のこれまでとこれから」が、9月1日(日)午前に「第5分科会 建設業の労働・労災問題」「第7分科会 芸術・芸能分野の過重労働やハラスメントの実態と課題解決の方向性」、同日午後には「共通論題 物流の『2024年問題』と働き方改革の課題～過労死等防止の視点から」が開催されました。自由論題の、第1・2・4分科会は、同年9月23日(祝・月)にやはりオンラインで開催となりました。「第6分科会 『遺族による啓発事業』を通じたアウトリーチと権利行使支援について」は、この分科会の企画者が対面での開催を希望され、後日に延期することとなりました。

本号は、大会の発表者を中心にあらかじめ投稿をお願いし、大会後、実際に投稿いただいた論文を中心に構成されています。

第1部を「特集」とし、「特別企画」と「共通論題」の報告者と指定討論者から届いた論文をそれぞれ8本・5本掲載し、第2部を「研究論文・その他」とし、分科会や自由論題の報告者から投稿いただいた論文に加え、今号発刊に当たって投稿いただいた論文2本を掲載しました。編集委員会は、こうした投稿を歓迎します。

こうして本号では、これまでで最多の25本を掲載することができました。11月の編集委員会で、これら25本の玉論をまとめて語るにふさわしい雑誌のタイトルについて議論しました。その結果、本号のタイトルを、「『2024年問題』と長時間労働一過労死・過労自殺をどう防ぐかー」としました。投稿いただいた25本の論文に通底するテーマを、うまく表現できているでしょうか。

本誌の性格から、現在論文査読は行っておらず、会員をはじめとした読者の読みやすさを考慮した“提案型の校閲”を行っています。しかし、第9回大会中に開催された会員総会での会員の要望を受け、学術論文として投稿いただいた場合には査読を行う方向で、引き続き検討しています。当学会の幹事会の意向もあり、前号から、英文タイトルをつけていただくことになりました(原稿にない場合、編集委員会から提案させていただいております)。それには、世界に向けて少しでも発信できるように、との狙いがあります。今号では、英文抄録のある論文もありますが、本誌は、英文抄録を必須のものとして求めてはおりません。しかし先の意向を汲むものとして、投稿いただいたものは、原則拒まず掲載することにしました。しかし、編集委員会としては、ネイティブ・チェックの面で力不足を感じています。これらの諸点について、会員諸氏の指導・助言を賜れば幸いです。なお、本誌収載の論文は、医中誌Webに書誌情報が収載されています。

本誌に収録された論稿はいずれも、本学会の目的である「過労死(過労自殺および過労

疾病を含む)の実態、原因および背景に関する調査研究を行い、その成果を過労死の効果的な防止のための対策と取り組みに生かすことを目的とする。」(会則第2条)に沿うものです。お届けした今号が、今後の過労死防止のための研究や政策や社会運動の発展に寄与することを祈念するとともに、本誌にご投稿いただいた皆さまに、改めて感謝申し上げます。

以下、第10回大会の内容と、本号に掲載された報告の関係を示します。

編集委員会より依頼し投稿いただいた論文を、第1部「特集」に掲載しています。8月31日午後の「特別企画」では、多角的な視点から過労死研究を振り返る記念講演(川人氏)を受け、産業医学・公衆衛生学(天笠氏)、教育・啓発活動(工藤氏)、過労死家族の会の立場(寺西氏)、韓国との対比(脇田氏)、学会誌の視点(高田氏)といった、いくつかの切り口から深めた論考をまとめています。また、指定討論者の粥川氏から論考が寄せられました。加えて、「特別企画」を企画・コーディネートし座長を務めた、長井代表の「覚書」を収載し、以上を「特集1」としました。2024年4月から、3業種(自動車運転・建設・医師)に対しても、時間外労働時間の上限規制が適用されることになりました。そのうち、物流およびトラックドライバーに焦点を当てた「共通論題」から、不規則勤務の健康影響と対策(松元氏)、トラック運転手の過労死防止(中西氏)の2本を投稿いただきました。加えて、指定討論者の矢野・渡部両氏から届いた論考2本を収載し、以上を「特集2」としました。

第2部「研究論文・その他」には、分科会や自由論題での発表者からの投稿論文を掲載しました。第1分科会(田中・土谷氏)、第2分科会(喜多氏)、第3分科会「航空産業における労働実態と疲労リスク」(酒井・奥平ほか・生井氏)、第4分科会(寺内・粥川氏)、第5分科会「建設業の労働・労災問題」(市村氏)、第7分科会「芸術・芸能分野の過重労働やハラスメントの実態と課題解決の方向性」(森崎氏)、以上の10本です。加えて、投稿原稿2本(桑原・長井氏ほか)を掲載しています。

以上の通り本誌は、主に過労死防止学会での発表・報告に基づいた論考で構成されています。次回の第11回過労死防止学会は学会創立10周年に当たり、2025年9月6日(土)～7日(日)、龍谷大学大宮キャンパス(京都)で開催予定です。本誌への投稿締め切りは、例年10月末日を予定しております。ご準備いただき、奮ってご投稿をお待ちしています。

2025年3月1日

学会誌編集委員会 天笠 崇